

令和3年度 県立学校の1人1台端末を活用した学校の取組について



R3年度 1人1台端末を活用した教育における取組目標
～ 県立高校における取組目標 概要 ～

▶視点1 – 授業改善の取組–

	学校目標	設定理由	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性
深まり	思考力の向上（深まり） ・他の生徒の意見との比較や傾向の分析等を行い、思考を深めるなど	・課題解決能力の育成 ・分析能力の育成		○	○
	学力養成・基礎学力の定着（深まり） ・基礎の定着から大学入試を見据えた応用力養成に取り組む ・生徒が試行錯誤して理解を深める学びを実現するなど	・身に付けた知識や技能の活用 ・思考力・判断力・表現力等の育成	○	○	○
広がり	プレゼンテーション能力の向上（広がり） ・論理的に説明しながら発表する力を有する生徒の育成 など	・学習の基盤となる情報活用能力の育成 ・生徒の発信力の育成	○	○	
つながり	学力養成（つながり） ・意見を共有における、より深い理解の促進・思考力育成 ・生徒の関心・意欲・理解度を把握・分析した、授業改善 など	・主体的に学習に向かう力の育成 ・個別最適化の学びの実現 ・授業改善の取組	○	○	○

▶視点2 – 授業外の取組–

	学校目標	設定理由	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性
学力向上	家庭学習（自学自習） ・実用英語技能検定準2級相当の英語力を持つ生徒の育成 ・学習動画を視聴したり、Webテスト機能を使って学習に取り組み基礎・基本の定着を目指す など	・個別最適化の学びの実現 ・主体的に学ぶ力の育成	○		○
	アンケート機能を活用した分析 家庭学習時間の入力などの各種調査等の、アンケート機能を利用した実施	・数値比較や分析能力の育成	○	○	
	ポートフォリオ作成 ・記録を確実にしポートフォリオの作成 ・自己を見つめ将来について積極的に考える態度の育成 など	・生徒の主体的な学びの定着 ・高大接続改革への対応			○
進路指導	進路指導（面接指導） ・面接応答等についての振り返り ・主体的に学びに向かう力の育成 など	・進学、就職等、自己実現に向けて ・就業時のビジネススキルの習得		○	○
情報活用能力	プレゼンテーション能力の育成 ・論理的に説明できる資料作成能力の育成 など	・学習の基盤となる情報活用能力の育成 ・生徒の発信力の育成	○	○	○

個別最適化の学びを実現する取組：アンケート機能等を活用する学校の割合 13校
学習支援アプリケーション等を活用する割合 7校

● 令和3年度の傾向

- アンケート機能や学習支援アプリケーション等を活用した、個別最適化の学びを実現する授業改善に取り組む学校が多い。
- 授業外の取組についても、基礎力定着を目的とした個別最適化の学びを実現する取組をする学校が多い。
- 進路指導の充実のために1人1台端末を活用する学校が多い。



R3年度 1人1台端末を活用した教育における取組目標
～ 県立中学校における取組目標 概要 ～

▶視点1 – 授業改善の取組–

	学校目標	設定理由	知識及び技能		
			思考力・判断力・表現力	思考力・判断力	学びに向かう力・人間性
深まり	思考力の向上（深まり） ・教科横断的な学びを実現する。 ・他の生徒の意見との比較や傾向の分析等を行い、思考を深める。	・課題解決能力の育成 ・分析能力の育成		○	○
	プレゼンテーション能力の育成（広がり） ・目的に応じて適切に情報手段を活用し、主体的に情報を収集し、発信できる能力を育成する	・考えを適切に説明する力の育成 ・情報を整理・発信する力の育成		○	○

▶視点2 – 授業外の取組–

	学校目標	設定理由	知識及び技能		
			思考力・判断力・表現力	思考力・判断力	学びに向かう力・人間性
学力向上	家庭学習(自学)での活用 ・中学卒業までに英語検定準2級以上を取得した生徒の割合	・英語によるコミュニケーション力の育成 ・リスニング力、スピーキング力の向上	○		
	ポートフォリオ作成 ・記録を確実にい行いポートフォリオの作成 ・自己を見つめ将来について積極的に考える態度の育成 など	・論理的かつ視覚的な表現力の育成 ・分析能力の育成		○	○
分析	アンケート機能を活用した分析 家庭学習時間の入力などの各種調査等の、アンケート機能を利用した実施 など	・数値比較やデータ分析の育成	○	○	

個別最適化の学びを実現する取組：授業改善の取組 2校
授業外の取組 3校

- すべての県立中学校で、個別最適化の学びの取組を行っている。
- 思考力・判断力・表現力等の育成を取組目標に定めている学校が多い。
- プレゼンテーション能力の育成等、主体的に情報を分析したり、活用する能力を育成を目指す学校が多い。



R3年度 ICTを活用した教育における取組目標
～ 特別支援学校における取組目標 概要 ～

▶ 視点1 - 学習用情報端末を活用した取組 -



	学校目標	設定理由	知識及び技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性
深まり 広がり	知識・技能/学びに向かう力 困難さを軽減し、基礎力の定着・学力向上	・学びへの意欲的、主体的な参加	○		○
情報 リテラシー	体験学習・調べ学習・発表活動での活用 アクセシビリティ機能を活用して、自らの視機能に合わせたパソコンの操作ができる生徒の割合 など	・就労に向けての支援	○	○	○
情報 活用 能力	体験学習・調べ学習・発表活動での活用 目的に応じて適切に情報手段を活用し、主体的に情報を収集し、発信できる能力を育成する	・情報を収集し選択する力の育成		○	○
教員の スキル	授業改善・指導法の工夫 児童生徒の特性や困難さに応じた授業づくりや支援を行うことができた割合 など	・ICTを活用した指導力の向上 ・写真等を用いた見通しを持った学習活動の保証	○		○

▶ 視点2 - 電子黒板を活用した取組 -



	学校目標	設定理由	知識及び技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性
深まり 広がり	知識・技能/学びに向かう力 デジタル教材や動画を効果的に活用した自学自習	・主体的に発表する態度の育成 ・お互いの発表を理解したり、活用したりする力の育成	○		○
広がり つながり	文章作成能力の育成 ことばの力を高め、自分の考えをわかりやすく伝えることができる児童生徒の育成 など	・学びへの意欲的、主体的な参加 ・疑似体験による学習への満足感		○	○
教員の スキル	学習、生活上の困難の克服への支援 動画や画像を補助資料として提示しながら効果的な提示をしたり、児童生徒の興味関心を引き出す教材作成ができる教員の割合	・個別の支援計画を基にした支援 ・個々の障害に応じた視認性の向上	○		○
教員の スキル	学習、生活上の困難の克服への支援 活動の内容や日程など、学習に係る具体的な見通しが持てるようになる など	・学習への達成感の成就と自己肯定感の高揚 ・写真などを用いた見通しを持った学習活動の保証	○		○



1人1台端末の活用

1人1台端末の活用については、児童生徒の活用を想定した目標を設定している学校が多く、【情報活用能力の育成】、【調べ学習・発表活動での活用】を目標に挙げている学校が多い。
児童生徒の個々に応じた基礎学力の育成や学力向上に取り組む学校も増えてきている。



電子黒板の活用

電子黒板の活用については、教師の活用を想定した目標を設定している学校が多く、【授業改善・指導法の確立】、【学習、生活上の困難の克服への支援】を挙げている学校が多い。具体的には、画像・映像等を提示して、学習の見通しを持たせる、興味や関心を高めることなどをねらっている。
一方で、「自学自習」の取組を目標に挙げる学校がある。

令和3年度の取組事例 ①

▶目標1 –個別学習及び協働学習の取組– (県立A高等学校)

授業改善の取組

取組
目標の
設定

- **取組目標** 1人1台端末と電子黒板を使って、他の生徒の意見を視覚的に比較したり、意見をまとめたりすることで、生徒一人ひとりの思考を深める。
- **設定理由** 生徒の意見を比較し、まとめることで思考を深めるため。
- **具体的方策** 生徒が1人1台端末に表示した考えを電子黒板に比較表示することで、多様な意見があることを理解し、さらにまとめることで考えを深める活動を行う。

具体的
取組

- 授業外において、教科の連絡等を1人1台端末に配信することで、日常的な活用を行う
- 学習時間の入力では、生徒が入力したものに対して、担任がコメントする

【学校の取組】

▶ 各担当教諭が授業改善の取組を実施→全体に共有

(国語科の取組)

- ① 生徒の制作物(ワークシート等)の共有
- ② 協働的学びとしての生徒同士の情報交換
デジタル百科事典のようなものを作成して予習・復習に活用
- ③ 個別学習(主に知識習得)のための学習教材
古文単語自学デジタル教材の活用

中間
報告

- 機器のトラブルを考慮すると、手書きのほうが効率の良い場面が多いが、テキスト入力のほうが書くことへの抵抗が薄い生徒もいるので、併用することが望ましい
- 協働的な学習を行う際は、OneNoteが使いやすい
-生徒が記載した内容が、リアルタイムで反映されるため、学習意欲の向上につながりやすく、ポートフォリオのように記録を残しやすい
- 自学用の教材は、開発の手間と運用の工夫が必要であるが、教育的効果は高い

▶ 生徒が主体的に取り組むように仕掛けることで、かなりの教育効果が期待できる

令和3年度の取組事例 ②

▶目標1 - アンケート機能活用の取組 - (県立B高等学校)

授業改善の取組

取組
目標の
設定

- **取組目標** アンケート機能を活用して、個別最適な学習の実現する。
- **設定理由** 学習中の生徒の状況をリアルタイムに把握し授業展開に生かすことにより、主体的に学習に取り組む態度を養うため
- **具体的方策** アンケート機能を活用して、教員が定期的に生徒の状況を把握する。

具体的
取組

- アンケート機能は1人1台端末でSKYMENUの投票機能やFormsを用いる。
- アンケート機能を用いて生徒の理解度を把握し、授業改善に役立てる。
- アンケートの結果を評価に用いる。

【学校の取組】

▶ オンライン授業の試行を実施

- ① 生徒が学習した内容をプレゼン
- ② 他の生徒は発表をFormsを用いて評価
- ③ 評価結果をリアルタイムで確認
- ④ 評価を基に発表内容を修正し改善
- ⑤ 再度プレゼンを行い、再評価



① 生徒のプレゼン



② 他の生徒が評価



③ 他の生徒からの評価を確認

取組
結果

- 発表を通して、これまでに学習してきたことをわかりやすく説明することができる。
- ルーブリックでの評価を通して、聞く側の視点を持った発表を行うことができる。
 - ・評価規準はルーブリック評価による評価表を基に行う。
- 教員はこれらを基に授業改善に取り組む。

生徒の主体的な学びにつながると共に、
新学習指導要領で重視されている「評価」
に反映することが可能

令和3年度の取組事例 ③

▶目標1 -プログラミング学習の取組- (県立C特別支援学校)

授業改善の取組

取組目標の設定

- **取組目標** 1人1台端末を用いて、児童生徒の興味関心や特性に応じた授業作りや支援を行う
- **設定理由** 児童生徒の興味や関心、得意なことを生かした学習用端末の活用を行うことで、児童生徒が意欲的、主体的に学習活動に参加したり、学習の達成感を味わったりできるようにするため
- **具体的方策**
 - ・学習内容への興味関心が広がるよう、内容に関連した視聴覚教材を用いた授業を行う。
 - ・表現の幅が広がるよう、プログラミングアプリやデジタル描画アプリを用いた授業を行う。
 - ・思考が深まるよう、ロボットプログラミングを取り入れた授業を行う。
 - ・各クラスの連絡におけるチームチャットの活用法を職員に紹介
 - ・コミュニケーション代替アプリを用いて、自分の気持ちや要求を伝えられる授業を行う。



具体的取組

- 1人1台端末を使用し、調べ学習やローマ字入力の学習を実施 (対児童生徒)
- GIGAスクール構想と特別支援教育でのICT活用に関する校内研修を実施
- パラリンピック選手や県外校の生徒との、オンライン交流を実施

【学校の取組】

- 「ロボットプログラミング選手権 (病弱教育部門)」に参加
- ① 「総合的な学習の時間」「技術・家庭科 (技術分野)」にて計画
 - ② 電子黒板で大相撲の映像を視聴し、相撲に対するイメージを深める
 - ③ 準備のために必要な役割を決定し分担
生徒の特性に合わせた役割分担 (大会運営、参加者)
 - ④ 反復プログラムを活用した学習 → 実際に使用するビジュアルプログラミングソフトに挑戦



中間報告

- 最後まで自分の役割に責任をもって取り組むことが可能に
- 試行錯誤しながらプログラミングに取り組むことが可能に
- 思い通りにロボットを動かすことができたという自己肯定感を得ることができた

児童又は生徒の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等を考慮した情報活用能力の育成が可能に